

令和5年度児童養護施設事業報告（四恩学園・四恩たまみず園）

1.総括

令和5年度においては、(1) 地域小規模児童養護施設の継続（3施設）と新規開設、(2) 子どもの権利擁護の推進、(3) 人材確保と育成 を重点項目として取り組みました。

(1) については、収入を安定させることと本体施設の小規模化を図るため、四恩学園では新たな地域小規模児童養護施設の開設を達成しました。しかし、本園で生活する55名の子ども達の生活環境の改善は引き続きの課題です。

(2) については、入所児童の心の安定と自己肯定感を高めることを目的とし、より丁寧な関わりを目指しました。安心安全な生活空間を守るために、『安全の約束ハンドブック』作成に取り組みました。

(3) については、将来的に想定される「小規模化」に向けて、人材確保に取り組みました。その結果、15名（新卒は12名）の採用につながりました。この人材の育成を進めて参ります。

2.財務の視点「収入を安定させる」

・四恩学園：毎月1日在籍数 平均59名（充足率70% ※本体施設のみ）

・四恩たまみず園：毎月1日在籍数 平均40名（充足率73%）

四恩学園は令和6年度も暫定定員67名となっています。建て替えをふまえて新規入所を止めていました。医療的ケアや将来的にグループホームを必要とする子どもが増えている等の現状を分析し、新たな戦略が必要となっています。

四恩たまみず園は、令和6年度は暫定定員51名となっています。

財務の視点では、措置費収入で優遇されていることもあり、地域小規模児童養護施設の運営において、職員の加配による収入が全体の収入安定につながっています。今後も加配職員を配置することが求められています。

3.顧客の視点「自分も他人も大切に作る心を育みます」

①子どもの権利擁護を推進します

入所児童の心の安定と自己肯定感を高めることを目的とし、より丁寧な関わりを目指しました。

・『安全の約束ハンドブック』を作成しました。

安心安全な生活空間を守るため、ハンドブックの作成に取り組み、職員間で議論を重ねました。明文化することで、統一した養育の展開を図ります。

・『施設のあたりまえ』の見直し

中高生の門限に柔軟性を持たせる、中学生の携帯電話の契約、公道での小学生の自転車使用、小学生の習い事の推進などに取り組みました。

さらに、見直しを進めるためには、集団生活の中でどのように支援の個別化を図るのかという課題があります。

②自立（家庭復帰）に向けた体制整備

- ・1ルームマンションを活用し、一人暮らし体験を進めています。実際に体験した子ども達もイメージを持つことで、その後の方向性の決定に繋がっています。
- ・奨学金、助成金などを活用することで、進路の選択肢が増える一方で、安易な進路選択につながっている一面もあり、目的意識の低さから中途退学につながるケースもあり、新たな課題となっています。

③地域活動の推進

- ・学習塾「フライオン」（場所提供）
 - ・駄菓子屋しおん（毎月第3土曜日、隔月でテイクアウトを実施）
- 地域小規模児童養護施設大道荘の1階スペースを活用した地域活動も3年目を終えました。新たに見えてきた地域課題もあり、地域住民と協働して解決に向けた取り組みを進めます。

4.内部統制の視点「職員の労働条件を改善し、働きやすい職場環境を整備する」

①職員配置について

職員配置が4人の小規模グループがあり、1か月に7回以上の泊まり勤務或いは他部署からの泊まり勤務のサポートが必要となっています。職員の負担を減らすためにも、5人配置とするため採用活動に取り組んでいます。

②個別対応が必要な子どもへの支援

新型コロナウイルス感染症が流行していた時、感染した子どものケア及び感染して療養している職員に代わる出勤などの超過勤務が増えました。その後、生活するうえでの活動制限も解除され、子どもたちの生活も元に戻り、それぞれに対する個別対応が求められていること、より丁寧な関わりを実現するため、個別外出や情報共有などの会議が増えていることなどを理由に、超過勤務時間の減少には至らず、職員に負担をかけています。

5.学習と成長の視点「各学校へのプロモーションを強化する」

人材確保につなげるため、実習生や就職説明会・見学会来園者への丁寧な対応、各学校とのパイプの強化などに取り組ましました。学生と施設が出会う機会として「実習」を大切に扱いました。

「実習生部会」を中心に実習生への指導内容の確認、各職員の実習生への対応確認等をまとめた「実習生受け入れマニュアル」を活用し、適宜、見直しを図り、より良い実習を目指しています。実習や見学及び採用試験受験者からは、「職員の言葉に温かみがある」、「職員と子どもとの距離感が良い」等の評価を得ています。

その結果、15名（新卒は12名）の採用につながりました。